

大会名 Competition	第32回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
No. M-114	Year Month Day Time 2019 年 5 月 5 日 14 : 35
場 所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会  
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB
開志国際	73 ●	中部大第一
	18 1st 27 17 2nd 15 26 3rd 24 12 4th 17 0 T	83 ○

主審:Crew chief  
高城邦弘 宮城  
副審:Umpire  
北沢あや子 岩手  
水木順仁 秋田  
テーブルオフィシャル:Table officials  
能代高校男子

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	高木 拓海	CAP	10	0	5	0	3	4		小林 拓光		-	-	-	-	0
5	/	板澤 明日起		14	0	7	0	1	5	×	仲宗根 弘	CAP	21	3	6	0	0
6	×	永原 陸		2	0	1	0	2	6	×	深田 怜音		13	3	1	2	2
7		吉川 瑠		-	-	-	-	0	7	×	加藤 康太郎		19	0	7	5	0
8		渡邊 渉太		-	-	-	-	0	8	×	ハトウマニ クリハリ		24	0	11	2	3
9		西村 洸星		-	-	-	-	0	9		平井 敬吾		-	-	-	-	0
10		星 一輝		-	-	-	-	0	10		山本 一真		-	-	-	-	0
11		小島 一真		-	-	-	-	0	11	/	吉本 大心		0	0	0	0	0
12	×	小野 功稀		3	1	0	0	0	12	/	葉山 隆誠		0	0	0	0	0
13	×	ジョーンズ 大翔		16	2	5	0	4	13		福富 剛志		-	-	-	-	0
14	×	JOOF YUSUF		28	3	7	5	3	14	×	福田 健人		4	0	2	0	1
15		OKOYE PETER JUNIOR		-	-	-	-	0	15	/	アブドゥライ トラオレ		2	0	1	0	3
16		石原 史隆		-	-	-	-	0	16	/	谷口 歩		0	0	0	0	0
17		田村 歩夢		-	-	-	-	0	17		平良 和輝		-	-	-	-	0
18		白澤 朗		-	-	-	-	0	18	/	古島 輝		0	0	0	0	0
コーチ		富樫 英樹						0	コーチ		常田 健						0
アコーチ		津野 祐樹						0	アコーチ		西村 彩						0
合 計				73	6	25	5	13	合 計				83	6	28	9	9

※×:スターター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking [Team]

1	28	38.36%	JOOF YUSUF
2	16	21.92%	ジョーンズ 大翔
3	14	19.18%	板澤 明日起

1	24	28.92%	ハトウマニ クリハリ
2	21	25.30%	仲宗根 弘
3	19	22.89%	加藤 康太郎

Score ranking [Game]

1	28	JOOF YUSUF	開志国際	2	24	ハトウマニ クリハリ	中部大第一	3	21	仲宗根 弘	中部大第一
---	----	------------	------	---	----	------------	-------	---	----	-------	-------

1Q、両チームともマンツーマンでスタート。中部大第一は#5仲宗根の3Pでテンポよく得点を重ねる。対する開志国際は#14ジョフのインサイドや#13ジョーンズのファストブレイクなどで加点する。終盤、中部大第一は#8ハトウマニの豪快なダンクなどペイントエリアでの得点も増え、18-27と中部大第一のリードで1Q終了。

2Q、開志国際は最初のオフェンスで#12小野が3Pを沈める。さらに#14ジョフがオフェンスリバウンドからバスケットカウントを決めて追い上げを図る。中部大第一もファストブレイクや#7加藤のドライブで得点し、残り5:43でリードを11点としたところで、開志国際がタイムアウトを請求。タイムアウト後、開志国際はルーズボールへの激しい執着心を見せ、点差を縮める。残り3:21、30-37となったところで中部大第一がタイムアウト。その後は互角の展開となり、35-42となったところで前半終了。

3Q、序盤は両センターを中心に点の取り合いとなる。残り6:17、中部大第一は#7加藤がファストブレイクでバスケットカウントを沈め、リードを12点としたところで開志国際がタイムアウト。タイムアウト後、開志国際は#5板澤の積極的なペイントアタックで次々と得点を重ね、流れを引き寄せる。61-66と開志国際が追い上げたところで3Qが終了。

4Q、序盤から互いに激しい攻防を見せ、主導権を握ろうとする。中盤、互いにシュートが落ち始めると中部大第一がオフェンスリバウンドからの得点を増やす。残り4:16、中部大第一のリードが10点となったところで開志国際がタイムアウトを請求、立て直しを図る。それでも中部大第一は追撃を許さず、73-83で試合終了。昨年度のインターハイ決勝と同カードとなったこの試合は、中部大第一が制した。